

丸山機械製作所

部品受託加工を拡大

新たに
旋盤導入 5割に引き上げ

【前橋】丸山機械製作所（群馬県高崎市、佐藤誠一社長、027・361・6631）は、部品受託加工事業について、粗利益ベースで現状の3割から1・2年後に5割に引き上げる。その一環で2010年秋に長尺用旋盤を1台導入し、11年内に1台追加する計画で、生産性向上などを武器に受注拡大を目指す。新聞広告折り込み機などの自社製品が成熟する中、いわゆる「下請け業」である部品加工の強化により、売り上げを平準化しつつ会社の成長を狙う。

実現した。アルミダイカスト製などのヒートシンクと比べ軽量で熱伝導率の良い製品が得られる。

一連の開発は経済産業省の戦略的基盤技術高度化支援事業に採択され実施した。

滝沢鉄工所製「TAC-1950」を導入した。新たに導入する旋盤については今後決める。営業では展示会への出張を計画しているほか、製造部長らにも営業活動への積極参加を促す。同

社は企画開発から製造、溶接・組み立てまでの、自社製品の製造で培った一貫体制を強みにする。新規導入した旋盤は、新聞折り込み機やオフィス向け省力機器など自社製品の製造にも活用しており、加工速度向上や工程集約化につなげる。

丸山機械製作所の従業員は30人。11年8月期は7億円の売り上げを見込む。部品加工事業は経営

の安定化のために05年に立ち上げた。現在は船舶用のリング状金属部品などを手がけている。



目指す。

海水魚の飼育は魚種に応じて生育地に近い環境を整えるため、水質を厳密に管理する必要がある。

新製品は塩分濃度や水温、水質などをセンサーで監視し、水

段ボールの商談テーブル

丸一興業 5分で組み立て

【神戸】丸一興業（兵庫県尼崎市、田中則彰社長、06・6487・0344）は、組み立て

解体が簡単にでき、運搬時の手間、コストを省ける強化段ボール製企画型

の安定化のために05年に立ち上げた。現在は船舶用のリング状金属部品などを手がけている。